

## 選考委員会における委員のコメント

富士市立田子浦小学校

「著作権に気を付けた情報発信」～資料の引用について考える

- 学習指導要綱に対する評価や児童に対する実態把握をしたうえで、授業の構想と目標をしっかりと設定している。また、教師の側で引用について分量(1/3)として構想していたことに対し、児童から具体的な量ではない考え方が示されたことは、授業による子供たちの変容のすばらしさを見た。ただし、資料としてかなりのボリュームとなっはいるが、読み進まない「何について発表しているのか」、(特に、(2)授業の展開までは)分からないので、先に何の発表かは記載してもらいたかった。
- 学習指導要領が完全実施され、学習活動のなかで情報を発信する機会が増えている。成果物を作成し、情報を発信する際には、著作権の扱いは重要なテーマとなる。このような状況において、教科学習や総合的な学習の時間の中で、スパイラルに著作権教育を実施している点はたいへん参考になり、今求められている実践であると感じた。
- 児童生徒で活用することの多い「引用」の問題を適切に扱っている。児童の学習の姿もよく見える。
- 引用については、小・中・高の各段階で繰り返し扱っていく必要があると思われる。本実践は、問題を正面から捉えて丁寧に扱っており、小学校段階での実践の模範例といえる。国語と総合的な学習の時間を関連させるなど、カリキュラム上の工夫もあり、児童の変容に関する報告内容も優れている。
- 児童とともに教員間でも意見交換をしながら著作権教育の意識を高めていること、児童の実態把握から何が課題なのかどういう指導をするべきかがよく考えられていること、著作権教育を意識した指導計画になっており単元の構想図がユニークでわかりやすく指導しやすいものになっていることなどを評価する。
- 学習指導要領をしっかりと読み解き、教科(国語)との関連が骨太に構成された優れた実践である。引用を取り上げる場合、著作権法上の引用の条件ばかりに目がいくことが多いが、この実践では国語的な「引用のよさ」に気付かせるところから入っている点が注目である。また、表1の「調べる まとめる 伝えるときに気を付けていること」は、引用の授業を行いたいと考えている教師に大変役に立つ。授業者も課題としてとらえているが、他教科でも「調べる・まとめる・伝える」活動の場面は多い。いつでも本学習を振り返ることができる工夫まで組まれていると、さらによい実践になると思う。
- 国語の授業から、「引用」という仕組みについて、児童から正しく引き出し、そして理

解させている。また、表現方法の一つとして、「引用」の仕方を取り上げることによって、まとめる・伝える力も高まり、国語の授業ならではの展開であることが分かる。なお、引用から人のものと自分のものと分けることによって著作権に触れることができるが、それだけでは不十分であり、「3、今後に向けて」へ記載があるとおり、他の授業などと連携し生活と密接なつながりの中で自分の意見と他人の意見の関係性などを知る必要がある。

- 国語科と総合的な学習をうまく組み合わせて、指導していくことで、著作権教育を確実に行うことができると考え、引用することの良さや引用の仕方を学ばせた。しかしながら、引用や出典を明記すると考えた子供はいなくて、著作権に対する意識が低いことがわかった。結果、著作権の概念や引用の仕方や引用がわかるようにした。継続して著作権教育に取り組んでいる実践を高く評価する。
- 小学校の総合的な学習の時間や各教科の調べ学習の課題となっている「引用」の問題を適切に扱っているのが評価できる。また、新学習指導要領を意識した価値ある実践である。著作権の学習について、国語、総合的な学習の時間で、それぞれのねらいに沿ってバランスよく取り扱っている。また、発表原稿で引用している部分に赤線を引かせ、引用とはどういうことを言うのか、さらに引用の分量まで子どもたちに考えさせているのが素晴らしい。また、この授業を通して、子どもたちに、引用や出典を明記する意識がしっかりできているなどの成果も上げているのが素晴らしい。小学校でこのような学習をしっかりしておくことで、中学校以降の学習に大きく生きると考える。

以上